

西條高盛 市川団十郎

今御身らが京を今日いきなりとかこつのもいはゆる国の
おとろへにて時世につれてのことなればたれのとがともいふ
にもあらず方今三府五港をはじめ都下は不学の

ものなきゆへかく開化の域にとゝめど遠境僻地に

いたりては有学のものまれなるゆへいまだぶんめいの

ときにいたらずさればこん日大政府のあつき

特旨をわきまへねば不平をならすもの

おほくそのおよばざるをしらずしてやぐ

すえればとどぶをむすび煽動なきもの

あるゆへに天下おだやかならさればこゝ

に全国のふけいきを生るなりおひく

遠境僻地迄も学校あらざる所なく教諭

おろそかならざれば少年輩は云に及はず其親たる頑固

の者も終に学事の徳をしり文明開化に進歩なきは

仇みな五百万の人民兄弟の心を生じ全国一和なす時はとゞ

を結ぶ者もなく全く天下泰平にて鼓復の時に至るべし夫逆も

遠からねばいまのこんくを打つがひ昔がたりにしたがよい

百姓作蔵 市川左団次

かうお見受申た所が戦争などにおかゝり合なくあなたは

楽な御身分のお方のやうにぞんじられ升るなかも

事などは御存じはムリ升まいが先百姓といふ者は米はもとより穀物

野菜作つて売るので今日の活計を立て参り升が四五年此かた

ふけいきに物の売れのわるい所へ此春からのひこの戦争長いことも

有まいと思ひの外ほかに四月たつごし立てもいまだにかた付ずばつたり物が
うれなくなり 私わたくし計りじやムりませぬ此近郷近在きんじやうきんざいのぶげんはしらず
小前こまえのものはひとなぎをいたし升る

「○その西條殿さいじやうといふは御一新しんのはじめから人に

すぐれて天頭てんてうへ力ちからを尽つくしたお方ゆへ

くんとうによつて大将たいしやうの位くらゐまで

のぼりしが何か心こゝろにかなはぬことでも

あつてのことかぞんじませぬが辞職じしやく

なされて国くにはうつり私学校しがくかうを取立とりたてて

多くおほのせいとへけうやなしひまさへ

あれば田はたへ出のうけふて農業のうぎやうなすを

たのしみに其身みみにおごりはすこしもなくこまる者に

ほどこしてどんなりつばなおかたでも又は水吞百姓みずのみひやくしやう

でもおなじやうになさるゆへせかいにあんなおかたは

ないと薩日隅さつひぐうの三ヶ国さんけこくでは神か仏ほとけのやうに思つて

わづか三才さんさいの子供こどもでも西條殿さいじやうといふ名なをしたふとの

人望じんぼうは金銀きんぎんではできぬことうけたまはれば学問がくもんも

すぐれたお方かたでありながら何ゆへなにこんなくはたてをなさ

れましたことなるかづまいの生れうまの私共わたくしどもには一円えんがてんが参り升ぬ